

# 支援プログラム（児童発達支援）

作成日：2025年1月14日

事業所名：こども発達LABO.Proリハ 東古松

法人理念	子どもの福祉から始まるまちづくりを通して、地域共生社会を実現する		
支援方針	適切にアセスメントを行い、日常生活上の課題に対して専門的に支援を行う。		
営業時間	8時30分から17時30分まで	送迎実施の有無	なし
支援内容			
本人支援	健康・生活	こどもの生活を支援するために、ICFの視点に基づき心身機能・活動・参加・環境要因など様々な視点から評価・支援を行う。 食事動作、更衣動作、排泄動作などの日常生活動作の評価・支援を行う。 日常生活動作の自立につながる、自助具・福祉用具の選定を行う。 TEACCHを取り入れ、構造化を意識した視覚支援を通して日常生活に必要なスキルや認知機能の獲得を図る。 CO-OPアプローチを取り入れ、日常生活上の動作に対する支援を行う。	
	運動・感覚	触れる、揺れる、つかまる、バランスを取るなど、遊具を用いながら、こどもの体の成長に必要な感覚統合を図る。 目で見る力・目を動かす力を育むビジョントレーニングを行う。 感覚プロフィールを用いて感覚特性についての評価・分析を行う。 こどもの感覚特性に応じた環境調整の方法を助言する。 JPAN・JMAPを用いて、姿勢・巧緻動作・協調運動などの評価を行う。 CO-OPを取り入れ、運動の困り感に対して、個人・課題・環境の視点からアプローチを行う。 こどもの姿勢保持に必要なシーティング・ポジショニングの方法を提案する。	
	認知・行動	太田のStageを取り入れ、日常生活に必要な認知発達を育む支援を行う。 TEACCHを取り入れ、日常生活に必要な概念を育む支援を行う。 ABAを取り入れ、日常の問題提起行動への対応の支援を行う。	
	言語・コミュニケーション	読み書きの評価・支援を行う。 課題のルール説明、予定のすり合わせを行い際に絵カードや文字などの視覚支援を行う。 TEACCH、PECSを取り入れ、理解・表出コミュニケーションを育む支援を行う。	
	人間関係・社会性	遊びを通して、ルール理解、順番の理解、役割分担などの社会性を育む支援を行う。	
家族支援	毎回親子通所のため、療育場面を観察・参加する中で、こどもの特性、関わり方などの方法を助言する。また、家族との対話を重ね、支援の方向性を協働して決めていく。	移行支援	就学などに向けて、本人の特性を整理し、移行先の機関と連携を行う。本人が移行先で過ごしやすくなるように進めていく。
地域支援・地域連携	こどもが保育園や幼稚園などの生活場面で過ごしやすくなるために、療育での様子や関わり方の工夫を先生と共有する。	職員の質の向上	毎回の療育の振り返り、週1回の事例検討会により、月1回の勉強会により、職員の質の向上に努める。
主な行事等	季節にそった製作活動を行う。 その他は、季節や利用者の状況によって企画する。		